

まるがめ まちなか 未来ビジョン

スニーカーで会いに行こう！



令和7年3月
まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム

ver.1.0

■そもそも「未来ビジョン」って何？

丸亀のまちなかを活気づけるために、**みんなで目指す将来像を描く**もの

丸亀のまちなか（中心市街地）では、市民交流活動センターのマルタスが完成し、今まさに面白い活動が増えてきています。その一方、普段のまちなかは閑散として、暗い印象となっています。

何とかこの好機に、まちなかも活気づけていきたい！と考え、みんなで目指す「まちなかの将来像」や取り組みのイメージを、この未来ビジョンで取りまとめました。

まちなかイベントのようす



普段のまちなか



みんなで目指す「まちなかの将来像」を描く！

■誰のための「未来ビジョン」？

丸亀の**まちなかに暮らすみんな**が主役！

行政や民間企業だけに、まちづくりを任せるわけではありません。

丸亀のまちなかやその周辺で「住む・働く・通う・学ぶ・遊ぶ・訪れる…」人たちが、まちなかで自分のやってみたいことにチャレンジできるようになることを目指しています。

そのため、未来ビジョンは丸亀のまちなかに暮らすみんなが主役となれるように作成しました。

普段と違う観光がしたい…



いまの仕事とは別に、
やってみたいことが…



丸亀のまちなか（中心市街地）の3つのエリア

子どもが喜ぶ遊具で
外遊びさせたい…



まちなかで楽器の
練習がしたい！



お気に入りの勉強場所
を作りたいな…

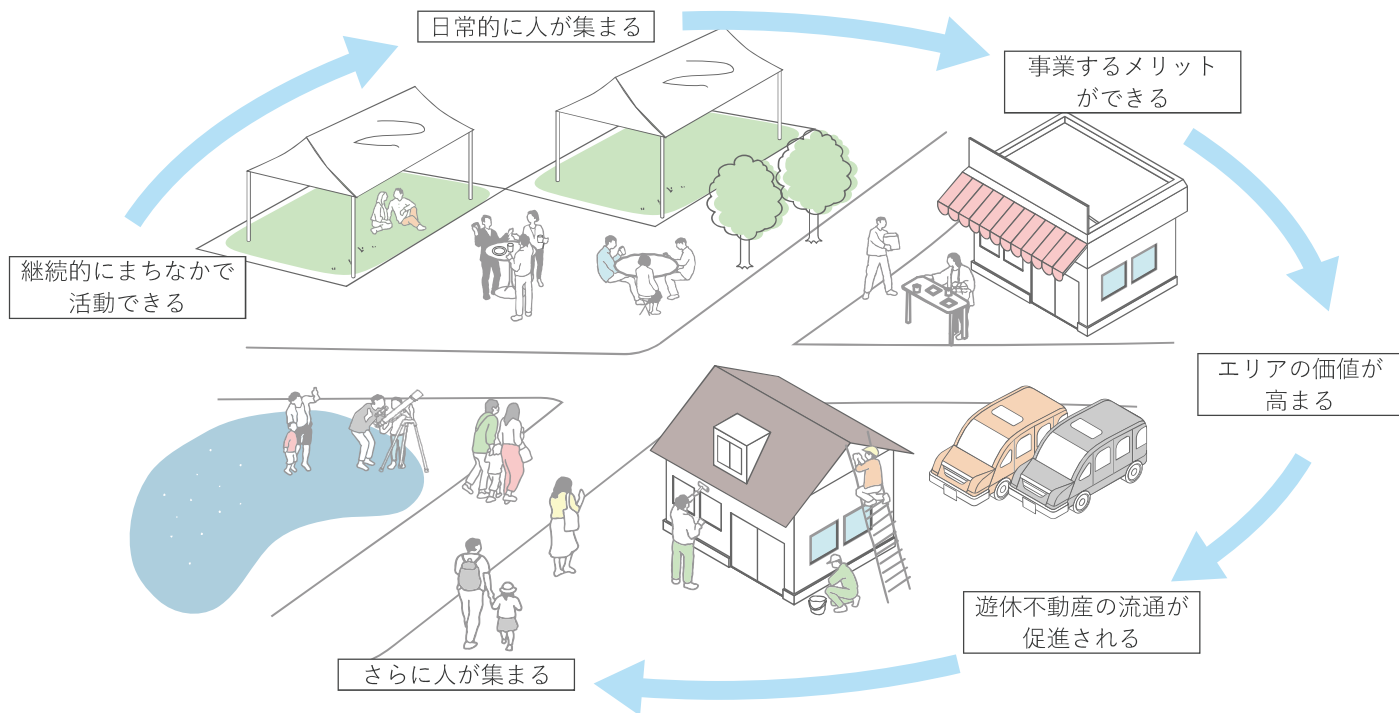


■ どうやって、まちなかを活気づけるの？

丸亀のまちなかを、みんなの活動と共に活気づけるために…

まちなかに人が集まり、**エリアの価値が高まる**循環を生み出す

という「戦略」のもと取り組みを進めることで、まちなかを活気づけることができると考えています。



■ まちの特徴

丸亀のまちなかは、丸亀城の城下町、金毘羅街道の起点のひとつとして栄えてきた歴史があります。瀬戸内海の塩飽諸島など、豊かな自然にも囲まれています。また、港～駅～商店街～城が約 1km 圏内に集積しており、歩いて暮らしやすいポテンシャルがあります。

■ まちの人の活動状況

地域活動をする方々からは、まちづくりの意識よりも、みんなで何かしたい、楽しい活動をしたいという声を多く受けました。また、活動のための場所の許可取りが困難であるなどの課題も見えてきました。

■ 遊休不動産の現状

富屋町・通町商店街の空き店舗率が高く、シャッターが目立つ状態です。空き家等を活用するにも、空き家の現状把握、利用者とオーナーのマッチング、修繕や解体費用などが課題となっています。

■ 行政の取り組みの方向性

丸亀市としては、既存の道路・公園・都市基盤を有効に活用しながら、中心市街地を再生して「賑わい」「人の流れ」「稼ぐ力」等のまちの活力を生み出し、『歩いて暮らせる歴史と文化の薫るまち』を目指しています。

■ 将来の姿と懸念されること

まちなかの少子高齢化が進む中でも、児童数が維持されている学校もあり、多様な世代の共存を模索する必要があります。また今後商店街に住宅が増えると、賑わいや観光が暮らしに影響を及ぼす可能性もあります。

城下町・金毘羅参りで発展



まちなかの目の前に広がる塩飽諸島



【出典：丸亀市公式HP 塩飽諸島】

ゲストハウスババノバ



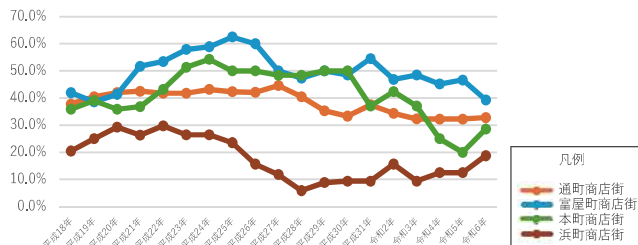
【写真提供：馬場商事】

高校生が主体で開催した丸亀大文化祭



【出典：丸亀大文化祭実施報告書】

中央商店街の空き店舗率



【丸亀市中央商店街空き店舗調査（令和6年）ほか（丸亀市提供）より作成】

■丸亀のまちなかの将来ありたい姿

歩きやすいポテンシャルを持つまちなか、気軽さや楽しさ溢れるまちの人の活動、丸亀市の実現したいウォークブル、まちなかで活動する「人」にフォーカスして、丸亀のまちなかの将来ありたい姿を考えました。

スニーカーで会いに行こう！



気張りすぎず、ラフな格好で過ごせる。
島や山々の自然、高くそびえるお城、
ちょっと歩いてみたくなるまちなか。

そんな丸亀には歩きやすいスニーカーがぴったり。

スニーカーを履いた軽やかな足取りで、みんなに会いに行こう。

■実現したい4つのイメージ

①ふらっと寄り道したくなるまち

仕事や学校からの帰りにふらっと訪れる、行きつけのお店ができる、気がつくと空き地に人だかりができて何かやっている。

そんな、**何気ない日々にとちょっと寄り道したくなる面白いものや場所があるまち**を目指します。



③「丸亀らしさ」が歩いて見つかるまち

まちの歴史や文化が暮らしの中に根付き、まちなかを歩くだけで昔の姿や趣、自然、活動を感じられる。

それがみんなの誇りとなって、**外の人も関わってみたいくなるようなまち**を目指します。



②「やってみたい」が伝播するまち

「やりたい」を実現する人をみて、自分もやってみたいかなと思える。壁にぶつかった時は、手助けしてくれる場所や制度が整っている。

誰もが自分の歩幅でチャレンジできるまちを目指します。



④会いに行きたい人がいるまち

人の集まる場所がまちなかに点在し、気の合う友達と過ごせる。話したことのない人も、まちでどんな活動をしているかが分かる。

「会える場所」と「知る機会」を通して、会いたいと思える人とほどよい交流ができるまちを目指します。



■ ありたい姿の実現に向けた基本的な取り組みイメージ

丸亀のまちなかの将来ありたい姿を実現させるための4つの基本的な取り組みのイメージを示します。

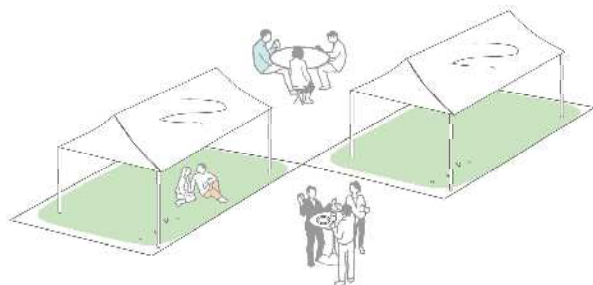
Action 1

空間活用

ふらっと立ち寄れる場づくり

① 空き地・公共空間の活用促進

まだ使われていない空き地や道路空間、公園等を活用して、ふらっと立ち寄れる場所をまちなかに増やします。



② 遊休不動産の流通促進

公共空間の賑わいを契機に、空き店舗や空家などの遊休不動産を活用できる連携体制を作り、まちなかに気軽に行きたくする場所を定着させていきます。



空き店舗などの
オーナーさん



空き店舗などで新しい
ことを始めたい人



マッチングする人
(地域貢献の意欲が高い不動産事業者など)

Action 2

仕組み・体制 気軽に相談できる仕組みづくり

①気軽に相談できる窓口の充実

場所の許可申請や費用面で困った時に相談できる窓口を充実します。

②活動を手助けする支援の充実

場づくりの成果を蓄積し、未利用地を活用するための制度やルールを整えます。
時には活動の実現に伴走支援するなど、一緒に挑戦する体制を構築していきます。



Action 3

ブランディング 歩いて見つける「丸亀らしさ」

①「スニーカーで会いに行こう」ブランディング

「スニーカーで会いに行こう」のイメージを取り組みで具現化し、価値の向上を測ります。

②まちなかへの丸亀らしさの反映

丸亀の自然、歴史、文化をストリートファニチャーなどのデザインに反映します。
丸亀らしいモチーフやサインを検討します。

Action 4

プロモーション 会に行きたくなる情報発信

①地域の人に「知ってもらおう」情報発信

マルタスやまちなかの情報発信機能を充実し、活動を知ってもらう機会を増やします。
活動する人の想いや取り組みを知ることができる交流空間を創出します。

②来訪者が「リピートしたくなる」情報発信

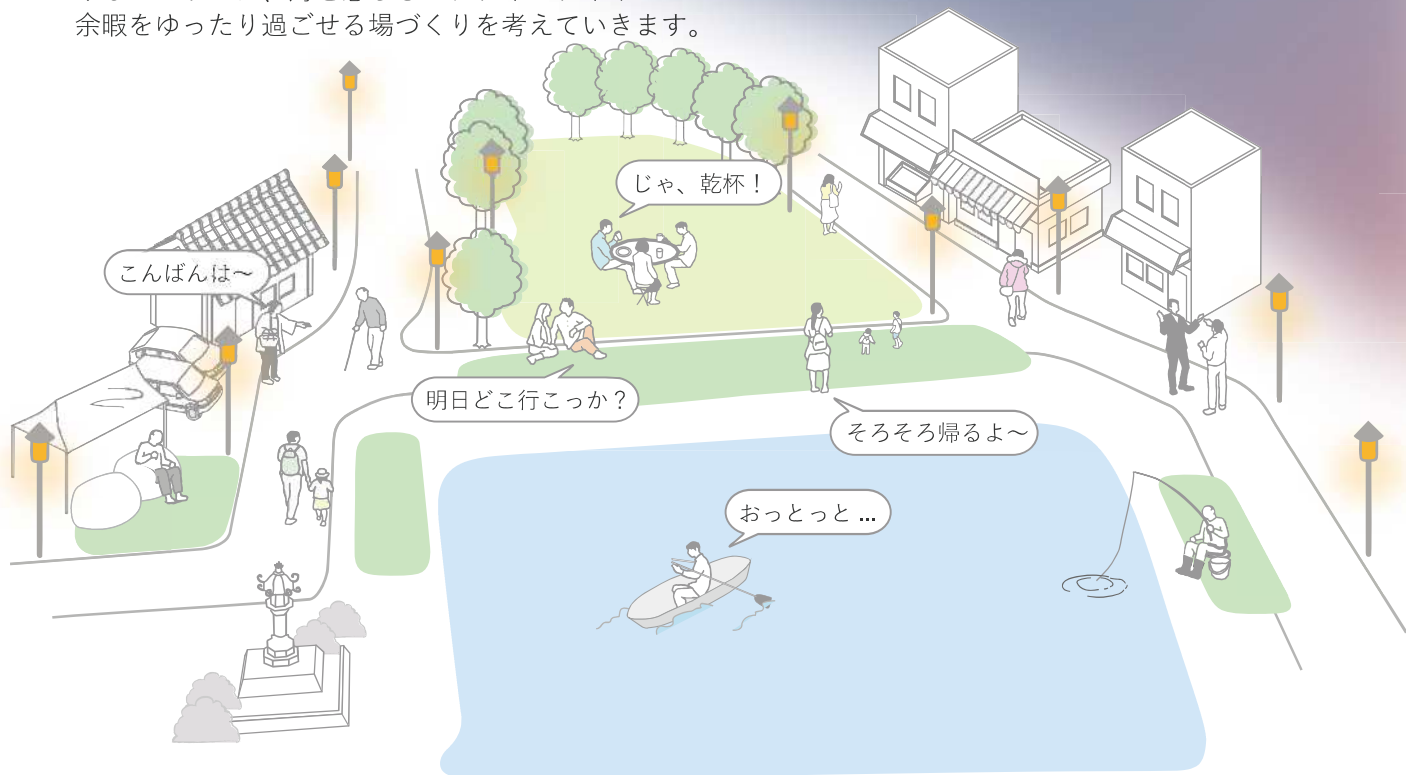
観光とまちづくりの連携を図ることで、来訪者も楽しめるような地域活動を創出します。

■みなとエリアの将来イメージ

海を感じて暮らしに寄りそうみなとエリア

駅からふらっと足を踏み出せば、
暮らしの先に海が見える。

みなとエリアは、海を感じるアクティビティや
余暇をゆったり過ごせる場づくりを考えていきます。



■えきまちエリアの将来イメージ

立ち寄る場所が点在するえきまちエリア

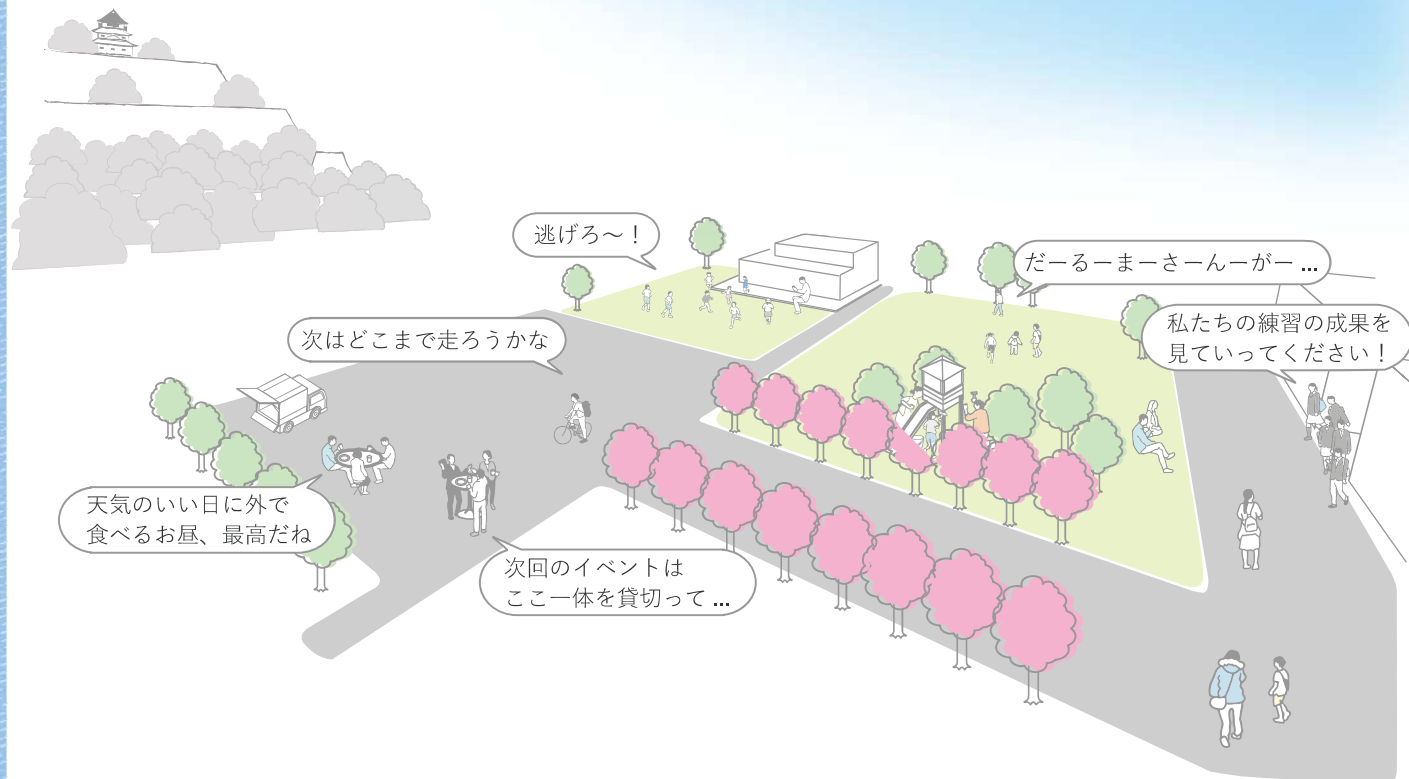
えきの南に広がる、魅力的なお店が隠れたえきまちエリア。
使われていない空き地や道路空間などを活用して、
気軽に立ち寄りたくなる場所を増やしていきます。
そして、空き店舗のリノベーション等による新規出店
へと段階的に進めていきます。



■城前エリアの将来イメージ

丸亀城を背に市民が躍動する城前エリア

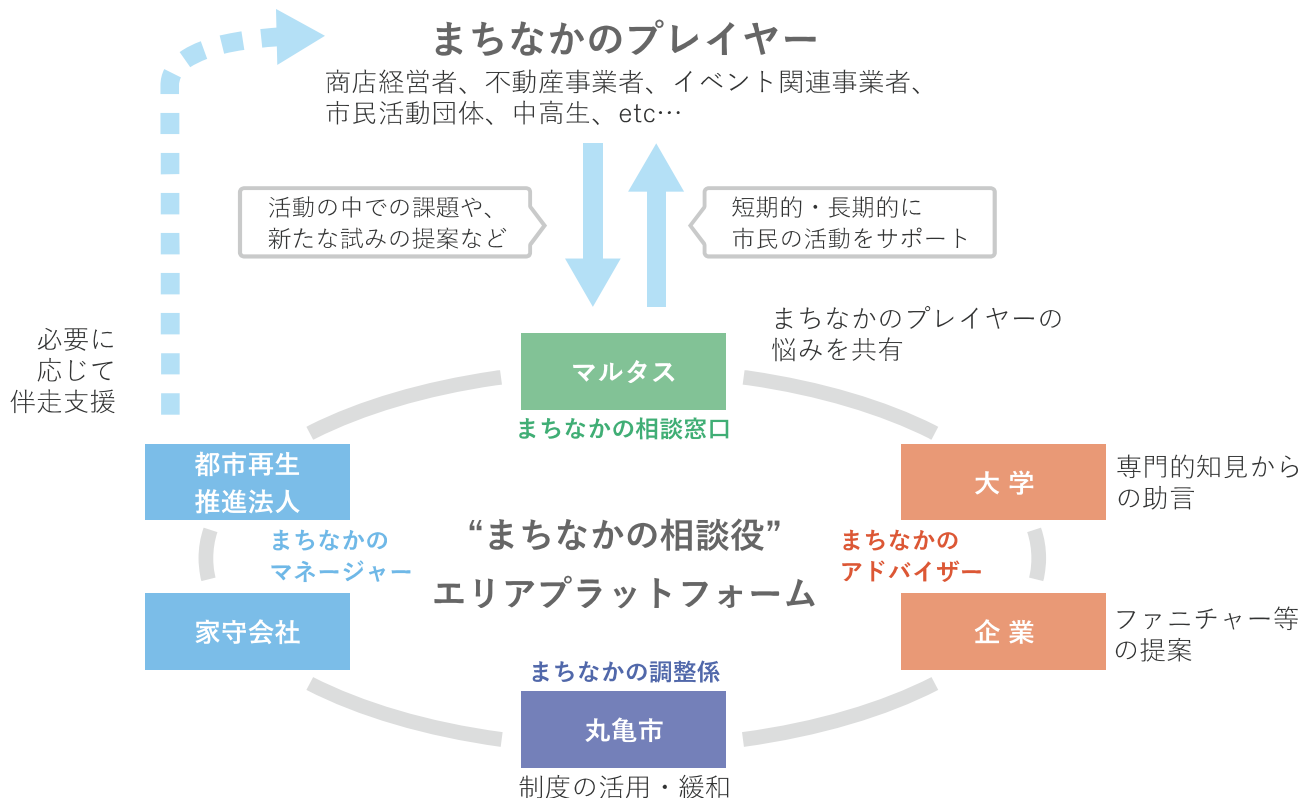
市民会館の建設や公園整備が進む城前エリアは、お城が見守る市民の舞台。
遊具や花壇、キッチンカーなど、みんなで居心地のいい場所を作っていきます。



■実現のための体制

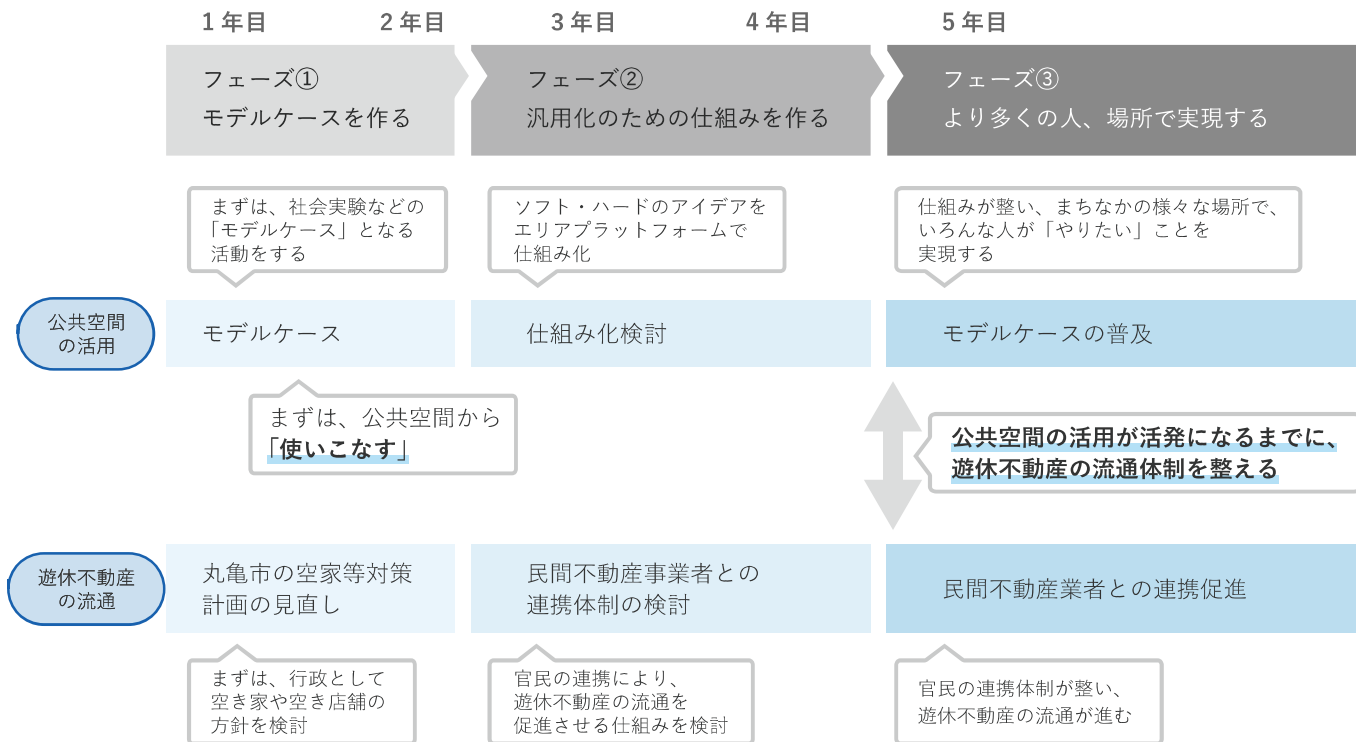
この未来ビジョンを作成したエリアプラットフォームが、「まちなかの相談役」として、まちなかで活躍する皆様（プレイヤー）の活動を手助けしていきます。

エリアプラットフォームの構成員については、「まちなかの相談役」となる事業者等の参画を促進していきます。



■実現のためのロードマップ

実現に向けて、【Action 1】の「公共空間の活用」と「遊休不動産の流通」のロードマップを示します。まずは公共空間の活用をモデルケースとしてスタートし、得られた知見の仕組み化、モデルケースの普及を目指します。そして、公共空間の活用が活発になるころには、遊休不動産を流通させる官民の連携体制が構築されて機能しているように、逆算して検討を進めていきます。また、残りの【Action 2～4】についても、同時並行で必要な検討を進めていきます。



■まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム・市民ワークショップ

まるがめまちなか未来ビジョンは、まちなかで実際にまちづくりに携わるプレイヤーや地元民間企業、大学教授、丸亀市が一緒になって、丸亀のまちなかの未来について、「まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム」の場で話し合った内容をもとに作成されています。令和6年度は、計4回の検討会が開催され、丸亀のまちなかの将来ありたい姿やその実現に向けた取組みについて話し合いました。また、市民のみなさんとコンセプトを一緒に考えるワークショップも実施しました。

まるがめまちなか再生エリアプラットフォーム



高校生との市民ワークショップ



まちなかのプレイヤーとの市民ワークショップ



まるがめまちなか再生エリアプラットフォームメンバー（50音順）

- ・ 香川大学
- ・ カルチュア・コンビニエンス・クラブ（株）
- ・ 四国化成ホールディングス（株）
- ・ （株）スナック
- ・ （株）HYAKUSHO
- ・ 丸亀市 都市計画課

